

令和 2年度 行政評価事業別シート

実計対象	<input type="checkbox"/>	評価対象	<input checked="" type="checkbox"/>	新規	<input type="checkbox"/>	完了事業	<input type="checkbox"/>	ゼロ予算事業	<input type="checkbox"/>	担当者	山本雅代
全体計画	平成29年度	～	平成31年度	経費区分	-			内線	3613		
事務事業名	4295 教育相談事業										
所 属	300100 教育委員会事務局・学校教育課										
施 策	02010700 特色ある魅力的な学校づくりの推進										
予算科目	会計	01 一般会計									
	科目	100103 教育費・教育総務費・教育奨励費									
	事業	060000 教育相談事業									
事業目的						事業概要・効果					
教育相談員、スクールカウンセラー、心の教室相談員を配置し、児童・生徒の悩みについての問題解消に努める。						小学校に入学後、個別配慮・支援、継続観察が必要と思われる児童については、5歳児すこやか相談事業から小学校へ引き継ぐとともに教育相談員の巡回を実施。幼・保・小が連携し、一人ひとりの児童に寄り添い継続支援を実施。 スクールカウンセラーや心の教室相談等の専門職を配置し、児童・生徒の心の安定を図る。					

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 実績
教育相談員の小学校巡回、スクールカウンセラー及び心の教室相談員による相談等を実施し、児童・生徒の心の安定を図ることができた。	教育相談員の小学校巡回、スクールカウンセラー及び心の教室相談員による相談等を実施し、児童・生徒の心の安定を図ることができた。
平成29年度 実績	平成30年度 実績
教育相談員の小学校巡回、スクールカウンセラー及び心の教室相談員による相談等を実施し、児童・生徒の心の安定を図ることができた。	教育相談員の小学校巡回、スクールカウンセラー及び心の教室相談員による相談等を実施し、児童・生徒の心の安定を図ることができた。
平成31年度 実績	令和 2年度 予定
教育相談員の小学校巡回、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカー、心の教室相談員による相談等を実施し、児童・生徒の心の安定を図ることができた。	教育相談員、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカー、心の教室相談員を配置し、児童・生徒の悩みについて、問題解消に努める。

指標名	無し					
算式						単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						
指標名						
算式						単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						
指標名						
算式						単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						

事業費

(単位：千円)

		平成31年度 決 算	令和 2年度 予 算
事業費		5,927	6,884
特定財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	15
	地方債	0	0
	その他	3,523	2,007
一般財源		2,404	4,862
人員数(人)	正規職員	0.1	0.0
	嘱託職員	0.2	0.2
	臨時職員	0.0	0.0
人員コスト	正規職員	726.5	0.0
	嘱託職員	565.8	565.8
	臨時職員	0.0	0.0
	計	1,292.3	565.8
市民一人当たりの経費		0.1	0.1
総額		7,219.3	7,449.8

(単位：千円)

平成31年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	3,649	スクールカウンセラー謝礼 学校問題解決支援チーム会議委員謝礼
11節 需用費	261	発送検査用紙の購入 消耗品費
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	2,017	教育相談員賃金、電話使用料 旅費 ほか

(単位：千円)

令和 2年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
7節 報償費	3,988	スクールカウンセラー謝礼 学校問題解決支援チーム会議委員謝礼
10節 需用費	285	発送検査用紙の購入 消耗品費
12節 委託費	0	
14節 工事請負費	0	
18節 負担金補助及び交付金	0	
その他	2,611	教育相談員賃金、電話使用料 旅費 ほか

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか 	必要不可欠
評価コメント	スクールカウンセラーや、スクールソーシャルワーカー（県費）が、悩みを抱える児童生徒及びその保護者等との相談や指導・助言、また関係機関と連携した家庭支援等を行う。	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか 	大変有効
評価コメント	児童生徒の悩みに共感し、助言や指導を行ったり、家庭支援を行ったりすることで、多くの児童生徒の心の安定を図る。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか 	向上
評価コメント	5歳児すこやか相談事業から小学校へ引き継ぐと共に、教育相談員の巡回を実施する。 スクールカウンセラー等の情報交換会の実施する。	

振り返り（決算年度の取組み課題）
県にスクールソーシャルワーカーの派遣を要請し、関係機関と連携した家庭支援を行った。

ACTION

1次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
-----------	------------

総合評価コメント

新たにスクールソーシャルワーカー（県費）を配置し、相談体制の充実を図ることができた。

2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
-----------	------------

2次評価コメント

子ども課「すこやか相談事業」から継続することで、要支援児童・保護者に適切な助言等が行えている。

外部評価

次年度以降の方向性	
-----------	--

外部評価コメント

--

令和 2年度 行政評価事業別シート

	実計対象	<input checked="" type="checkbox"/>	評価対象	<input checked="" type="checkbox"/>	新規	<input type="checkbox"/>	完了事業	<input type="checkbox"/>	ゼロ予算事業	<input type="checkbox"/>	担当者	大峽武
	全体計画						経費区分		実施計画事業費		内線	3645
事務事業名	4301 農業小学校運営事業											
所 属	300200 教育委員会事務局・子ども課											
施 策	02010800 児童・青少年健全育成の推進											
予算科目	会計	01 一般会計										
	科目	100606 教育費・社会教育費・児童青少年総合対策費										
	事業	040000 農業小学校運営事業										
事業目的						事業概要・効果						
子どもたちが、農業の厳しさや楽しさを体験し、たくましい精神力・創造力などを身につけ、世代間交流を通し、仲間づくりや地域連帯感を養い、地域の文化に触れる。						農業体験を通じ、「農業」の厳しさ、楽しさ、食の複雑さを知ることとあわせ異年齢の子ども達や大人達と触れ合うことによるコミュニケーション能力を身に付け、子どもたちの健全な成長の一助とする。						

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 実績
年間18回の授業を計画し募集をしたところ28組の参加申込みがあった。	年間18回の授業を計画し募集をしたところ21組の参加申込みがあった。
平成29年度 実績	平成30年度 実績
年間17回の授業を計画し募集をしたところ23組の参加申込みがあった。	年間17回の授業を計画し募集をしたところ25組の参加申込みがあった。
平成31年度 実績	令和 2年度 予定
年間12回の授業を計画し、募集をしたところ19組の参加申込みがあった。	コミュニケーションの活性化、授業の充実を図るため適正な人数を募集

指標名	無し					
算式						単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						
指標名						
算式						単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						
指標名						
算式						単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						

事業費

(単位：千円)

		平成31年度 決 算	令和 2年度 予 算
事業費		670	1,119
特定財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他	578	630
一般財源		92	489
人員数(人)	正規職員	0.3	0.4
	嘱託職員	0.8	0.9
	臨時職員	0.0	0.0
人員コスト	正規職員	2,179.5	2,906.0
	嘱託職員	2,263.2	2,546.1
	臨時職員	0.0	0.0
	計	4,442.7	5,452.1
市民一人当たりの経費		0.1	0.1
総額		5,112.7	6,571.1

(単位：千円)

平成31年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	84	消耗品費84
13節 委託費	500	農地管理運営委託500
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	86	旅費14、役務費(保険料等)44、土地借上料25、機器賃借料3

(単位：千円)

令和 2年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
7節 報償費	0	
10節 需用費	140	消耗品費140
12節 委託費	500	農地管理運営委託500
14節 工事請負費	0	
18節 負担金補助及び交付金	0	
その他	479	旅費337、役務費(保険料等)113、土地借上料25、機器賃借料4

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果(施策の目指す理想)に結びついているか 	普通
評価コメント	地域の方が講師となり、農作業の体験だけでなく、郷土食や地域の文化に触れ、親子のふれあい機会になっている。	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか 	普通
評価コメント	農業体験を通じ、食べ物大切さや伝統食など学ぶことができた。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか 	変わらない
評価コメント	保護者も一緒に作業に参加し、作業の効率化を図った。	

振り返り(決算年度の取組み課題)

参加者が減少しリピーターが多く、農家先生も高齢化する中、回数を減らす等農家先生の負担軽減に努めている。

ACTION

1次評価

2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続	次年度以降の方向性	簡易な改善（縮小）
総合評価コメント		2次評価コメント	
<p>新たな参加者を増やすため授業内容の充実等を図る必要があるが、その反面で農家先生の高齢化や担い手不足など考慮すると、農家先生の負担が今以上に増える授業内容は難しい。</p>		<p>事業内容を精査しながら、縮小を図ってきている。新たな参加者にどうアピールするかが課題。</p>	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	